



TITLE:

自由35 泌乳サルにおける排卵抑制の機序(Ⅲ 共同利用研究 2.研究成果)

AUTHOR(S):

前多, 敬一郎; 束村, 博子; 大蔵, 聡; 川合, 基之

CITATION:

前多, 敬一郎 ...[et al]. 自由35 泌乳サルにおける排卵抑制の機序(Ⅲ 共同利用研究 2.研究成果). 霊長類研究所年報 1991, 21: 91-91

ISSUE DATE:

1991-09-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/164200>

RIGHT:

の増生が起こっており、憩室炎なども確認された。

以上の事より憩室の発生、拡大の過程には、血管の位置や筋の走行などの腸管の形態が大きく関与していることが確認された。

自由35：

泌乳サルにおける排卵抑制の機序

前多敬一郎・東村博子・大蔵 聡・
川合基之（名古屋大・農）

ヒトを含む霊長類のいくつかの種およびその他の動物種において、分娩後は月経あるいは発情周期が回帰しないことが知られてきた。以前、われわれは泌乳中のニホンザルにおいて、分娩後初めての繁殖季節では性周期が回帰しないことを血中のホルモン動態から明らかにした。通常、泌乳をしていない個体においては9あるいは10月頃から性周期が回帰し始める。これにともない、黄体ホルモンであるプロゲステロンの血中濃度は周期的な増加と減少を繰り返す。一方、泌乳している個体ではプロゲステロン濃度は分娩後150から200日を経過したこの期間においても終始低値を保ち、分娩後初の繁殖季節には排卵あるいは発情は起こらないのである。しかしながらこの実験で用いたサルは室内で飼育された個体群であったため社会的な環境因子の影響がない。そこで、本年度は宮島野猿公園の協力を得て屋内および屋外の2つの環境下における出生率を比較することにより、社会的な要因が分娩後の性周期開始時期に及ぼす影響を調べた。

霊長類研究所の屋内において、12L12Dの条件で飼養されていた個体群（1980～1988）および宮島野猿公園において屋外飼育されていた個体群（1960～1988）について出生状況を調査し、出生の間隔を調べた。その結果、屋内飼育群では1年間隔の出生が総出生数の17.6%であったのに対し、屋外飼育群では37.5%と高く、分娩間隔の分布には有意な差がみられた（ $p < 0.05$, χ^2 検定）。このことは屋内飼育群では2年続けて出産することが希で、授乳している限り妊娠することが少ないことを示している。しかし、屋外飼育群では授乳していても比較的高率で妊娠し、翌年続けて出産するものと考えられる。

以上の結果から社会的な因子のない条件下では

母子関係が緊密となり吸乳の頻度が高いため分娩後初の繁殖季節でも発情周期は回帰しないが、屋外のコロニーの様に社会的な因子のある条件下では、吸乳の頻度は低く、比較的早く分娩後初回発情が起こり妊娠し、翌年出産する個体が多いものと推定される。

C. 資料提供

資料1：

ニホンザル放飼集団の争いにおける連合形成

待田昌二（大阪大）

京都大学霊長類研究所のニホンザル放飼集団（嵐山出目）において争いにおける連合形成の観察を行ってきたが、ニホンザルが争いにおいてどのような個体と連合するかは、連合する個体、連合される個体、敵対者の3個体間の血縁関係、順位、性及び年齢といった個体属性、2個体間の争いのwinnerをsupportするか、loserをsupportするかといった要因が影響していた。雌、特に成体雌がsupportした個体の多くは母系的血縁個体であるが、winner-supportでは近縁・遠縁個体とも期待値より有意に多かったのに対し、loser-supportでは子へのsupportのみが有意に多かった。特に、高順位個体に対抗してloser-supportする場合には、子へのsupportの割合が90%を超えており、成体雌は争いにおけるriskに応じてsupportする個体を変えていると思われる。一方、成体雄では母系的血縁個体をsupportする割合は低く、また高順位個体に対抗してsupportすることもほとんど無かった。

成体雄のsupportにおいては母系的血縁は重要な要因ではなかった。それ故、父系的血縁関係を考慮する必要がある。そこで、争いにおける連合形成の観察結果を、霊長類研究所の井上美穂氏と竹中修教授によるDNA Fingerprinting法による父子判定の結果と対応させた。その結果、成体雄が自身の子をsupportする頻度は期待値よりも高くはなかった。また、他の雄の子より自身の子をより多くsupportすることも無かった。さらに、成体雄が雌をsupportする頻度とその雄が父親である未成年の頭数の間には有意な相関は見られなかった。これらの結果は、成体雄は短期的な繁殖